

巻頭言

感性を磨く

生涯学習部長 小野 安史

「感性」とは、どこか受身のような感じがしますが、感性はいろいろな感情を生み出し、行動に結びつくものであり、価値のあるものに気づく感覚のようなものです。つまり、創造性などにも結びつき、理屈抜きで直感する心のはたらきと言えそうです。

感性を磨くには、人生の質を上げることだと思います。本物に出会い、体験や感動できる機会を逸することのないよう、いろいろなことにチャレンジし、よく見て、よく考えて多くのことに気づいて感性を育てることが大事なことと考えています。

例えば、「食事を楽しむ」「絵や音楽を鑑賞する」「自然に触れる」「スポーツに汗を流す」「読書にいそしむ」などが感性を磨くことにつながるでしょう。

一日24時間は誰にとっても平等であり、春夏秋冬の四季があり、一年一年365日は巡ってきます。日々繰り返される日常生活を磨かれた感性で過ごせることができれば、人生は、素晴らしく、そして豊かなものになるのではないのでしょうか。

まだまだ未熟な私ですが、自分らしく、心にゆとりをもち、感性を磨き、お互いに尊敬し合える人との関わりを大切にしながら成長していきたいと思っています。そして心豊かな人生を過ごせるよう感性を磨き続けたいと思います。